

1 調査結果の概要

(1) 小学校：学校質問紙

全国値と比べ顕著な差があった項目

（「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」、「よく行った」「どちらかといえば、行った」等を合計した肯定的な回答の割合の差が15ポイント以上あった項目）

※①は「その通りだと思う」「よく行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）、②は「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）

【プラス項目】

「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。」 (①-0.1、②+20.8)

「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか。」 (①-1.0、②+17.7)

「調査対象学年の児童に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか。」 (①+0.5、②+17.1)

「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか。」 (①+13.6、②+4.1)

「調査対象学年の児童に対して、新年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか。」 (①+25.9、②+12.8)

「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。」 (①+13.2、②+6.8)

「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」 (①+14.2、②+26.9)

「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。」 (①+17.0、②-0.2)

「調査対象学年との児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」 (①+16.2、②+25.5)

「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。」 (①-5.0、②+22.1)

「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。(国語/算数共通)」 (①+5.2、②+17.0)

【マイナス項目】

「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。」 (①-33.6、②+13.9)

(2) 中学校：学校質問紙

全国値と比べ顕著な差があった項目

（「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」、「よく行った」「どちらかといえば、行った」等

を合計した肯定的な回答の割合の差が15ポイント以上あった項目)

※①は「その通りだと思う」「よく行った」と回答した割合の全国値との差(ポイント)、②は「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、行った」と回答した割合の全国値との差(ポイント)

【プラス項目】

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。」 (①-1.6、②+18.9)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしましたか。」 (①-1.6、②+22.0)

「平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。」 (①+5.3、②+19.1)

「平成25年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。」 (①+40.8、②-18.0)

「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。」 (①+30.0、②-14.5)

「学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか。」 (①+45.3、②-28.9)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。」 (①-15.9、②+32.4)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。」 (①-1.8、②+11.8)

「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか。」 (①+24.4、②+8.4)

「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。」 (①-14.2、②+29.4)

「知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成していますか。」 (①+9.9、②+7.6)

「言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか。」 (①+28.2、②-8.7)

【マイナス項目】

「調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。」 (①-21.2、②+4.1)

「調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか。」 (①-11.8、②-3.2)

「調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。」 (①+16.9、②-57.5)

「調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか。」 (①-7.4、②-31.4)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか。」 (①-4.8、②-13.5)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。」 (①-10.8、②-8.4)

「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか。」 (①-8.6、②-17.6)

「平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。」 (①-1.1、②-19.2)

- 「平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。」
(①-22.7、②+7.3)
- 「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。」
(①+6.1、②-37.6)
- 「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか。」
(①+14.8、②-33.4)
- 「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。」
(①+1.7、②-37.8)
- 「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。」
(①+17.1、②-40.4)
- 「調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」
(①-10.8、②-25.5)
- 「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか。」
(①-7.8、②-16.4)
- 「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。」
(①+1.5、②-17.4)

2 学校質問紙の調査結果をふまえて

○小学校は、全国値を顕著に上回るプラス項目が多い。

(プラス項目：11、マイナス項目：1)

学級やグループでの話し合い活動において、「相手の話を最後まで聞く」、「自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている」と児童の姿を肯定的に捉えている学校が多い。さらに、ICT機器を活用して子ども同士が教え合い学び合う学習や課題解決型の授業を取り入れている学校も多く、授業の中で、子どもが表現し、子ども同士がしっかりと関わり合いながら学習を進めていこうとする学校の意図がうかがえる。

また、国語・算数では補充的な学習の指導だけでなく発展的な学習の指導も行われ、個に応じた指導が進んできていること、図書館等を利用した授業も多く取り組まれていること、地域や社会で起こっている問題や出来事も多く扱っていること等の取組が学力調査の結果にも反映されていることが推測できる。

ただし、児童質問紙からは、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と感じている児童が多く、教師の意図や見取りと児童の思いにズレがある。今後は、より工夫した話し合いの方法や表現の仕方を高めていく活動が求められる。

○中学校は、全国値を顕著に上回るプラス項目より、マイナス項目がやや多い。

(プラス項目：12、マイナス項目：16)

全国学力・学習状況調査の結果について、結果のみならず結果を踏まえた取組についても保護者等に説明を行っている学校が多い。また、地域の人材(ボランティア含む)を活用し、保護者や地域の方と連携し学校の教育活動を行っていることが特色としてあげられる。

また、指導計画について、知識・技能の活用に重点を置いたもの、言語活動の充実に重点を置いたものを作成している学校が多く、学習指導要領に沿った教育課程が編成できていることがうかがえる。

ただし、授業等の生徒の様子については、落ち着きのなさ・自分の考えを相手に伝える・話し合い活動における深まり等について満足できるまでには至っていないと捉えている学校が多い。これは、生徒質問紙の「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」の問いに対して肯定的に回答している生徒が少ないことに通じるものである。

今後は、教師の説明が中心の授業から、課題解決の過程で生徒が自ら考え、考えたことを話す(説明する)・書く等の表現する機会を保障した授業づくりが求められる。